

協力隊だより

# 着任初年度の終わりに 一年を振り返り、一年を見据える

左座 進介 (編集文化)

早いもので昨年の4月に氷見に移住して1年が経とうとしています。思い返せば来る前にイメージしていたことは今の生活とは全く違うものでした。1年目でやりたかったことの多くは実現していません。自分の不甲斐なさに悔しさがあふれます。一方で嬉しい誤算もあります。それは何よりも多くの素晴らしい出会いがあったことです。これだけ多くの市民の方に支えられたこと、可愛がってもらえたことは何よりの財産です。僕のテーマは今後も変わることなく「漁業」と「食」です。いい意味で氷見の暮らしにも仕事にも慣れてきたと今なら言えます。1年目の反省と培ってきたつながりを活かしながら協力隊員として飛躍の2年目に少しでも漁業のこれからを照らしたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。

笠原 拓真 (映像制作)

着任してから約1年、様々なチャレンジの機会をいただき刺激的な毎日を過ごすことができました。東京で映像系の会社に就職していても、地域社会とクリエイティブな仕事を横断的に考える働き方はできなかつたと思います。「映像づくり教室」は地域おこし協力隊でなくては実現できなかったその最たる例です。この教室では「自分なりの視点を持ち、それを他者と共有する楽しさ」を学んでもらいます。このコンセプトは若者など広い世代の声が地域に反映される、そんな未来の一助になってくれると考えています。今は子どもや若者を中心にした取り組みが多いですが、来年度はこれまで交流できなかった人たちも巻き込めるような仕掛けを実行に移していきたいです。

山下 健太郎 (移住推進)

移住定住担当の山下です。去年の4月に氷見に来て最初の1ヶ月での様々な体験が強烈だったので、このペースで1年過ごしたら死んでしまう……！と思っていたのですが、なんとか1年乗り越えることができそうです。9月にまちづくりバンクを開設してから移住に向けた相談なども少しずつお受けするようになり、対応をし

澤田 典久 (水産農化)

氷見に移住し、地域おこし隊として活動し、あつという間に1年が過ぎようとしております。この1年間、様々な方々にお会いし、数多くのお声かけをいただき、誠に感謝いたしております。地区でのイベントや行事にも数多く参加させていただき、協力隊としてのスキルアップと任期後への足掛かりにもなる知識や体験の場をいただき充実した活動が行えたと思えます。着任時は、他市の協力隊とは違い、3年後の起業に向けてのステップアップが活動の主旨であると同時に、地域の活性化を地区の方々と共に行っていく使命が、両肩にずっしりとプレッシャーとなつてのしかかつておりました。しかし活動を続けていく中で、地域の皆さん、出会った様々な方々の言葉や行動は、大いに励みになりました。地域おこしは、我々が切っ掛けになり、それを地域の

皆さんが自分たちの力に変えて行っていくものであります。自分たちの行動はようやく芽を出した小さな苗にすぎませんが、残りの任期で、少しでも多くの苗が氷見市内各地域に広がり、大きな木に育つように頑張らなければと再確認し、次年度への新たな決意として頑張っていきたいと思えます。

稲垣 信志 (水産農化)

農業の場合、冬場の作業が少なく、協力隊の業務で皆さん何をされているのか心配されると思います。しかし、農作業が出来ない1～2月、速川地区では、干し芋の加工、焼酎『白が峰』の出荷作業、床鍋で初めて開催される藁細工体験の企画・立案・準備などを行いました。また、副業で速川の焼き芋をひみ番屋街で販売しながら、氷見を訪れたお客様から、様々な声を聞くことが出来ました。その他、速川地区での取組みを氷見市地域自慢大会や富山県主催の

にしたいですね。



『氷見暮らしの体感ツアー』  
2月末から全3回開催する1泊2日の移住体験ツアー。氷見に移住を検討している人を対象とし、暮らしや人、仕事をメインテーマとしたプログラム。



脇之谷内たんぼぼの会のみみなさんと

元気な中山間地域づくりセミナリで発表させて頂きました。速川地区以外でも、ひみ有機の里づくり協議会主催『ひみの有機の里づくり』実践学習の企画・運営や脇之谷内たんぼぼの会で作られた氷見キムチの製作・販売などにお手伝いさせて頂きました。昨年4月に氷見に着任して、速川地区を初め氷見の皆さまに可愛がって頂いたことを本当に感謝しています。来年度も、氷見の里山を元気にすることを一生懸命努力精進していきますので、よろしくお願ひします。

# 藤田 智彦 (移住定住)

先日、地域おこし協力隊第2期生の募集活動が行われました。じきにみなさまのもとに、新しく加わる仲間をご紹介できることとなります。思い返せば1年前、私自身も応募者として氷見市を訪れ、選考を受けました。そのとき語ったのは、「まちに新しい交流の場をつくりたい」という想いであり、それは今も変わりません。そしてそれが実現できたとも思っています。「氷見市まちづくりバンク」は建物としてのオープンを迎えることができましたが、機能としてその力が最大限活かされてはいないと感じています。ではどうしたら力が最大化されていくのか、それはひとえに集まる人の力にかかっていることと考えます。次年度は積極的に周囲に働きかけ、まずは近隣、そして市内外から、多くのみなさまに足を運んでいただき、新しい出会いと行動の生まれる場としていければと思います。当初より「まちとともに成長する施設」というコンセプトがありました。それを体現できるよう一層精進して参ります。引き続きよろしく願いいたします。



## 『氷見の屋根に降る雪』

山下 健太郎

研修の一環として、「ヘリテージ・シマナー・シヤール講習会」に参加させていただいています。これは町中に眠る歴史的な価値のある建物を登録文化財に登録するために、人材を育成する講座です。この中で富山の各地方での古民家の違いをタイプ別に分けて紹介している講義があり、氷見は能登型の寄棟型住宅の影響を強く受けているという事を知りました。特徴としては寄棟屋根の勾配が緩やかだという話でしたが、なぜ緩やかなのかはその時はわからずにいました。ただこの冬を迎えて、海辺の集落沿いを車で走ったりしていると、今年は例年に比べて雪が少ないとはいえ、そこまで雪に気を遣う必要はなかったのだらうなという事を感じずにはいられません。白い雪が舞う中、黒い屋根が緩やかに重なるように見える景色はなんだか優しい感じがあり、独特の景観を作っているのだなと思われました。



協力隊員がみつけた氷見のいいところ

## 『氷見キムチ』

稲垣 信志

脇之谷内で作られている氷見キムチは、豊かな氷見の里山の食材がたっぷり詰まった食品です。このキムチには、脇之谷内を初めとする氷見の白菜、大根、ねぎ、生姜、大蒜、リンゴ(三尾)、干し柿や、県羽梨や国内産の玉ねぎやニラ(玉ねぎやニラは次年度以降、氷見や富山県産を使える可能性がある)が入っています。また、ただ単に販売するのが目的ではなく、冬場外に出ることが少なくなる里山で、世代を超えた地域の人たちが力を合わせて作業を行い、お喋りしながら顔を合わせられる場づくりにも役かっています。そんな愛情がこもった氷見キムチは、ひみ番屋街みのりの番屋「Aグリーンひみ、氷見あんしん」食品などで販売していますので皆さまよろしくお願ひします。

## 『新成人と一緒に』

金石 拓真

1月10日氷見市新成人のつどいが執り行われました。今回は成人式と抽選会の2部構成！有志が集まってくれた新成人の皆さんと一緒に1から内容を決め、式の1週間前には毎日市役所へ集まり準備するほどの熱の入りがよかったです。当日は実行委員の全員で抽選会を取り仕切り、このチームにしかできない心のこもった式に仕上げてくださいました。市外からやってくるインターン生や学生達と交流することは何度もありましたが、実際に氷見に暮らしている若者達とイベントをつくりあげるといったシチュエーションはほとんどなかったもので、とても良い刺激になりました。来年は他の地域おこし協力隊も一緒に関わるつもりです！

# 今後の活動予定

■3月6日(日)にNPO法人速川活性化協議会で、床鍋地区の藁細工体験教室と同地区のおばあちゃんたちが作る里山料理を楽しめるイベントを開催いたします。床鍋地区では、小さな亀の飾りから神社用のしめ縄まで様々な藁細工が作られています。しかし、製作者の平均年齢は80歳の高齢のおばあちゃんたちが中心で、次世代の後継者が不在の状況です。この素晴らしい伝統文化を後世に伝えるべく、今回のイベントを開催いたします。時間に余裕があり、定期的に作業が可能の方、里山への移住・定住を希望されている方、文化継承を真剣に考える方、まだ余裕があるかもしれませんのでぜひお問合せ下さいませ。【主催・問合せ】NPO法人速川活性化協議会 ☎0766-76-1781(平日9時～16時)まで。(稲垣)

■4月から協力隊は2年目に入り2期生も入ってきます。より充実した活動にしていくためにもまずは1年間の振り返りをしつかりとして年度内に課題とやるべきことを明らかにしていきます。魚食普及が一つの使命である僕は、市内の人に氷見の魚をもっと食べてもらおうこと、外部の人に魚や漁業のもっとコアなところを見てもらおうことの2点が来年度の活動の軸になっていきます。魚々座があることも大きな武器です。大きなことや、完璧さにはこだわらず、とにかく数多く実践していける2年目を目指します。もし漁業や魚食普及、海の教育など興味がある方がいればお気軽にご連絡いただければと思います。よろしくお願ひいたします。(左座)

■2月23日から氷見ソーシャルインターン(免許合宿とインターンの複合プログラム)参加学生3名が氷見に滞在しています。昨日行われた同プログラム参加学生とチームを組んで「未来氷見市」政策コンテストにエントリーし、発表に向けた政策立案を行っています。協力隊からは澤田・金石・藤田が参加しており、最終発表は3月21日に行われます。当日は市内外、年代も様々な出場チームの政策発表があり、白熱すること間違いなし。是非ご来場ください。(藤田)

**氷見市地域おこし協力隊 活動報告会 開催決定**  
**4月2日(土) 魚々座(予定) 詳細後日発表**